

ど い 土肥こうすけ

後援会ニュース2019年6月（第18号）

発行：土肥こうすけ後援会 発行責任者：出原 逸三 編集責任者：三田 哲治
〒525-0044 草津市岡本町1000番地2(ダイキン工業労働組合滋賀支部内) TEL:077-564-1153



梅雨時の蒸し暑い季節ですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

空調の温度設定などに気をつけながら、どうか風邪などお召しにならないよう、ご自愛ください。

■今任期最後の定例会

草津市議会の6月定例会が、6月7日から6月28日の会期で開かれています。市民の皆様からの期待や信頼に応えるために、全力で議会活動に励んでまいりましたが、いよいよ今任期最後の定例会となります。

2015年10月に初めて議会に臨み、行政に対して「学校教育環境」「市職員の意識」等についての一般質問から議会活動をスタートし、以来、子育て・医療・自然環境・交通・産業振興・心身の健康など、住みやすい・働きやすい草津の実現に向け、後援会の皆様から頂いたお声をもとに、行政の考え方や取り組みについて議論してまいりました。

そうした活動の成果として、例えば火葬場が小さく、故人を草津市内で見送れなかったとの声に対しての「[火葬場整備に向けた基礎調査](#)」や、野鳥被害で困っているとの要望に対しての「[鷹匠派遣](#)」が新たに予算化されました。また、定例会ごとに上程される議案や市の新年度予算案に対しても、生活者の視点でチェック機能を果たしてまいりました。

残された任期は3ヶ月余りとなりましたが、「もっと住みよい、住みたい草津」を目指し、勤労者・生活者の代表として、これまで以上にしっかりと議会を通じて行政に市民の皆様のお声を届け、市政に反映しうる政策提言へとつなげてまいります。

皆様と一緒に、草津を「もっと誇れるまち」にしていきたいと思っています。引き続きのご指導とご支援を賜りますよう、宜しくお願いいたします。



活動報告

草津市の「新しい答え」を求めて

嘉田ゆきこ前知事を講師にむかえて勉強会

5月19日（日）に国民民主党・滋賀県連主催の研修会に参加してまいりました。

講師である前滋賀県知事の嘉田ゆきこ氏からは、「命をつなぐ政治を求めて～人口減少・災害多発時代の不安に対する5つの新しい答え～」というテーマでご講演いただきました。

少子高齢化社会・経済格差の拡大など、様々な不安に対し、嘉田ゆきこ氏が考える「新しい答え」の提示があり、私自身の政策との連携を図りたい内容がたくさんありました。

女性の労働参画度合いの高い国は、出生率が高く財政も安定しています。一方、日本は女性の労働参画度合いが比較的低く、加えて、女性・非正規雇用の賃金や労働条件が良くありません。そうしたことが、出生率の低下に繋がっているのではないかと懸念についても、嘉田ゆきこ氏の視点でお話がありました。

現代の日本が抱える様々な課題を一つひとつ解決していくためには、男女とも働きやすく働きがいのある環境を整備していく必要があることを再認識いたしました。国政レベルでの解決活動と連携して、滋賀県・草津市の困りごとの解決に取り組むことで、市民・県民の安心安全な生活環境づくりを実現してまいります。

■嘉田ゆきこ氏を支援いたします

嘉田ゆきこ氏は、今夏に行なわれる第25回参議院議員選挙に、国民民主党・立憲民主党、そして、働く仲間と構成する「連合滋賀」の推薦を受けて立候補を予定しています。

暮らしの課題や問題を根本的に解決することを目指す上で、地方自治体の予算規模や条例制定等では限界がある、と感じることがあります。

嘉田ゆきこ氏には、滋賀と中央の架け橋として、また、国政における勤労者・生活者の代表として頑張ってもらいたいと願っておりますので、後援会の皆様におかれましても、ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



後援会ニュースの政策に対して、ご意見を頂きました

小中学生医療助成費の対象年齢を引き上げてほしい

子育て中の市民の方々から、「上限年齢を引き上げ、小学校卒業まで通院費を補助してほしい。」「通院にかかる自己負担額を無料にしてほしい。」など、小中学生の医療費助成制度についてご要望を頂きました。

下表「大津湖南地域における市域ごとの医療費助成制度の違い」に示した通り、草津市では、通院に関しては、2017年10月から小学校3年生までを補助対象とし、自己負担額を「500円/回」に設定していますが、近隣の大津市では、小学校6年生までが対象となっています。一方で、入院に関しては、大津市の小学校6年生までに対して、草津市では中学校3年生（自己負担なし）までとなっています。

厚労省の調査によると、小学校4～6年生の児童にかかる年間の入院外医療費は約8万円となっています。教育等にかかる費用が高まる時期にあつて、生活者としてはできるだけ抑制したい負担額であると思います。

しかし、現実的には、対象上限年齢を引き上げるにあたり、最も大きな課題となるのが財源の確保です。2017年10月以降、通院補助対象を「就学前⇒小学校3年生」と引き上げたことで、小中学校医療助成費にかかる予算が約3倍に膨れました。対象を6年生まで引き上げるとしたら、今まで以上に事業の見直しと税収増を図る必要があります。この大きな課題をクリアし、子育て世帯にとって更に安心して暮らせる環境にするため、予算や決算の審査を重ねてムダをなくし、必要な財源を確保できるように取り組んでまいります。

【大津湖南地域における市域ごとの医療費助成制度の違い】

	草津市	大津市	栗東市	守山市	野洲市
通院	小学校3年生 500円/回	小学校6年生 500円/回	小学校入学前 自己負担なし	小学校入学前 自己負担なし	小学校入学前 自己負担なし
入院	中学校3年生 自己負担なし	小学校6年生 1000円/日	中学校3年生 自己負担なし	中学校3年生 自己負担なし	中学校3年生 自己負担なし

交差点での歩行者の安全を確保してほしい。

先日、大津市で発生した悲惨な事故を受けて、多くの市民の方から「二度とあんな悲しい出来事は起きてほしくない。」「草津市にもあのような交差点がある。何とかしてほしい。」というお声が届けられました。

あらためて、犠牲になった幼い命のご冥福をお祈りいたします。

頂いたお声の通り、私も二度とあのような事故が起きないようにするために何とかしたいと考えています。

工場などのものづくり現場では、作業前に「危険予知活動」を行ないます。危険予知活動とは、①作業開始前に起こりうる災害を想定し、②どうすれば災害を未然に防ぐことができるのかを話し合い、③防止策を立てるまでの一連の活動を指します。こうした活動は、地域の安全性を高めるためにも有効と考えます。

警察庁交通局のデータをまとめた統計によると、交通事故の半数以上が交差点内で発生しています。ただ、交通量などは地域や時間帯によって異なるため、一律的な対策が全ての交差点で有効とは限りません。

そこで、まずは実態をよく知る地域の方々と一緒に危険予知をした上で「歩車分離の信号制御」や「信号やガードレールの設置」などの防止策を立て、実現に向けた行政との協議や予算確保に取り組むたいと考えます。

市民の皆様とともに、まちの安全性を高めてまいりたいと考えていますので、ご理解とご協力のほど宜しくお願いいたします。

参議院議員選挙の比例全国区について

2
枚目

比例代表選挙

比例代表も

候補者名
で投票



参議院議員選挙の比例全国区は、政党名だけでなく、候補者名で投票することができます。

私も支援していただいている「連合」においても、産業別労働組合からそれぞれ比例全国区で候補予定者を擁立し、政策制度要求の実現にむけて、働く仲間の代表を国会へ送り出そうと取り組んでいます。

産業別で抱えている課題や問題意識は若干異なりますが、働く者の立場で生活者の視点で社会を安心安全なものにしたいという想いは同じです。

企業を経営する側の視点で政治を行うのではなく、現場で働く勤労者や家族の暮らしに寄り添った政治を実行するためには、一人でも多くの仲間を国会に送り出すことが必要です。

後援会の皆様におかれましても、私の政治活動と同様に「連合」の社会政策活動に、ご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。